

AOI
Group
経営編

上海便り 2008年12月号

【情報提供】 【編集 / 提供】

(株) 葵ビジネスコンサルタンツ

東京本部: 横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12

横田会計ビル 2F

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.aoibc.com> E-mail: aoi@aoibc.com

【中国経営の参考書籍】

アメリカの元外交官が書いた外交白書のような書籍、更に、中国の大河ドラマで、私小説的な書籍と日本人から見たビジネス的な書籍の3冊になります。

「中国 - 脆い超大国 -」 スーザン・L・シャーケ ; NHK出版社: ¥2,625

米中国交回復の以前から約 40 年間も中国と付き合い、クリントン政権では国務省の中国担当外交官を勤めたアメリカ人の分析や解説になります。

特に、中国の重要な外交相手の3カ国「vs 台湾・アメリカ・日本」についての記述は、絶品です。

著者の分析は、『中国は強さを装うが、内実は問題が山積して極めて脆弱である』でした。そのため、外部にナショナリズムを高揚させる相手・国々・目標等が必要になる。そして、**「中国人は対日感情に関して、理性的になれない！」**とも紹介して、更に、衝撃的な一言としては、

万が一、外国と戦争が起きた場合……………

- ・ 「台湾との戦争ならば、1ヶ月の給与を寄付する」
- ・ 「アメリカとの戦争ならば、1年分の給与を寄付する」
- ・ 『日本と戦争するならば、**自分が死んでもいい**』 **戦いに行く！**

以上ですが、アメリカ人に対する発言ですので本音でしょう。

その3カ国との外交関係を表現すると、

* 米国関係 「面子」と「国益」

* 日本関係 「愛国心」

* 台湾関係 「**死活問題**」

;台湾関係は、共産党体制が対応を誤ると政権が倒れる

多数の中国人がアメリカ人の外交官にここまで、正直に、繊細に、事実を語っていると判断できました。

そして、ジックリ読むと驚かされて、最後には「冷や汗」も出て来る内容でした。

「兄弟」 上巻; 文革篇 & 下巻; 開放経済篇

余 華 / 著 & 泉 京鹿 / 訳 ; 文芸春秋: 各 ¥2,000

中国では「豊かな」浙江省の農村地帯を舞台にした約 40 年間の大河ドラマです。

強い兄弟愛の間に、上巻で「文化大革命時代」の悲劇的な、暴力的な事件を表して、下巻では鄧小平が開国した「開放経済」下の中国における庶民の「エロ・グロ・ナンセンス」と言う喜劇的な多数の出来事を取り上げています。この対比に筆者の主題が、隠れているように思えました。

現在の中国では、文化大革命の出来事をここまでも、詳細に書けるのかと「隔世の感」を禁じえません。

「三島由紀夫」と「川端康成」も出て来ますので、その取り上げ方も楽しみしてください。

「ベイジン」 上巻 & 下巻 真山 洋 / 著 ; 東洋経済新聞社: 各 ¥1,680

今度は、日本のビジネス人から、見た中国ビジネスや風土の現状になります。小説の主な舞台は、「北京」と「大連」です。

著者は、多くのビジネス小説を書いています。その中でも NHK で放送された「ハゲタカ」が代表作かもしれません。しかし、この「ベイジン」が NHK で放送される事はないと思います。それで書籍の内容が、想像できると思います。

少し大げさに書かれている所もありますが、著者は中国や中国ビジネスをかなり勉強しています。テーマは、今後の中国における「希望」かもしれません。

重かった一言は「口だけの男が多すぎる。これからは、無骨だが、行動力のある男が求められる」でした。この発言者のモデルが、誰かもお楽しみに？

(F: 記)

OVT Aアドバイザー

Merry X mas